

夏の風情を満喫

### 第6回つべつ七夕まつり開催

8月6日、夏の恒例イベントとなった『第6回つべつ七夕まつり』（主催 つべつ七夕まつり実行委員会）が、さんさん館及び同駐車場で開催されました。

特設ステージでは、キッズダンス・FACEの踊りや山鳴太鼓保存会の演奏、子どもたちに人気のバルーンショー、まる太くんイベントなど、盛りだくさんのパフォーマンスが披露され、訪れた観客を楽しませました。

会場内に設けられた手作りの屋台・縁日コーナーは、冷たい飲み物や焼き鳥などを求める人々ににぎわいを見せ、来場者は夏の宵の風情を満喫していました。



▲子どもたちに大人気のバルーンショー

### みんなで輪になって つべつ納涼盆おどり大会開催

つべつ納涼盆おどり大会（主催・津別観光協会、つべつ納涼盆おどり大会実行委員会）が、8月16日、津別神社境内で開催されました。

第一部では、子供盆おどりに続いて恒例の力キ氷早食い大会が行われ、小学生の部から合宿で滞在中のラグビー選手も参加した大人の部まで、冷たさに耐え真剣な戦いを繰り広げました。第二部では、大人盆おどり、仮装盆おどりコンテストが行われ、アイデアあふれる衣装を身につけたグループがおどりの輪に加わりました。

雨の影響で一日遅れの開催となった今年の盆おどり大会ですが、例年にも増して盛り上がりを見せました。



### 津別町交通安全協会が啓発はがきを作成 かもめくるで飲酒運転根絶を呼びかけ

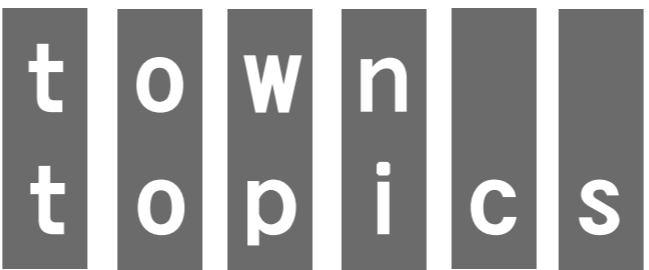
津別町交通安全協会（柳瀬輝彦会長）などが、飲酒運転の根絶を呼びかけるかもめくる（くじ付き夏のおたより郵便はがき）を作成し、8月10日、津別郵便局に町内全戸への配達を託されました。

このはがきは、津別町交通安全協会と交通安全推進委員会が、町内15の企業・団体の協賛を得て作成したもので、「飲酒運転禁止！」「飲んだら乗るな！」など、飲酒運転の危険性を訴える内容となっています。



▶はがきを手にする津別町交通安全協会・柳瀬会長（左）と篠森津別郵便局長（右）

皆さんも飲酒運転の根絶にご協力をお願いいたします。



まちのわだい

### 多様な考え方や価値観を認める 津別中学校で人権教室開催

8月18日、津別中学校で人権教室「ダイヤモンドランキング」が開催されました。学年ごとに開かれた教室では、津別町、美幌町の人権擁護委員8人の指導のもと、「ダイヤモンドランキング」と呼ばれるゲームを実施。言いたい事を言う、好きなものを食べる、恋をするなど、例示された9項目の権利（自由）について、個人や4〜5人のグループで1位から9位まで優先順位を付け、最後にリーダーが結果発表を行いました。



生徒たちは、グループで話し合いながら順位付けをする過程で、それぞれの価値観の違いを知り、相手の考え方を認めるといった人権尊重の基本を学びました。

### 思いやりの心をつなぐ つべつふれあい広場&友愛セール開催

障がい者、高齢者の積極的な社会参加や地域住民とのふれあいを目的とした「第25回つべつふれあい広場（津別町社会福祉協議会主催）」と「第43回友愛セール」（津別更生保護女性会主催）が、7月24日、中央公民館で開催されました。

会場内には介護用具の体験コーナーが設けられるなど、実際に手で触れながら介護等について考える機会となりました。また、会場前広場には豚汁の無料提供の他、焼き鳥や焼きそばなどの屋台が並び、多くの町民が訪れました。



▶今年も賑わった友愛セール

### 新しいALITのジョンソン・リーさんが着任

7月に任期を終えて帰国したアキンボボエ・ラファエルさんに代わる新しいALIT（外国語指導助手）として、8月にジョンソン・リーさんが着任しました。

ジョンソンさんはアメリカ・オハイオ州出身の27歳。今後、津別小、中学校、津別高等学校などで児童・生徒たちに英語



地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

34 ミイラ取りがミイラになる



立川 彰 静岡県出身。東京でテレビ番組のADを経験後、千葉県船橋市で映像制作会社を起業。二児の父。

津別町知ってる？ 昨年4月、千葉県船橋市の仲間と開かれ、僕は知らない」と答えた。そんな僕は、今、町役場の隣で家族四人で暮らしている。

僕の仕事は映像制作。昨年仲間の紹介で津別町の移住促進用の映像を作った。担当したのは移住した先輩方のインタビュー。ある方は子供のために、ある方は自然の魅力に惹かれて、様々な物語があった。

どう編集するか答えが出ないまま、僕は帰りの飛行機に乗り込んだ。その機中、とある町の移住促進映像が流れていた。楽園、天国のようなわが町に移住してください。

楽園？ 天国？ どんな土地でも必ず苦労はある

し、天国なんかあるはずがない。僕がインタビューした人たちは厳しい自然と共に年を重ねていた。厳しい自然だからこそ、家族が、社会がより協力しあえる。四季がはつきりわかるからこそ、一年の時間経過を噛みしめて生活できる。

そんなコンセプトで行こう！ と思ってふと気づいた。移住促進をしておきながら、自分が移住しないのはフェアじゃない。調べてみると道東には映像制作会社がほとんど無い。これはチャンス！ と、ネット配信型の映像制作「道東テレビ」を立ち上げ、協力隊の任期中での法人化と収益化を狙う。いつも協力してくれる妻に感謝の毎日です。